

The History of Mark II

マークII さらなる記録への挑戦

マークIIがオリンピックイヤーモデルであることをご存じだろうか。
「4年」というスパンは短いようでありながら、確実に時代を変化させる。
打ち立てられた偉大な記録は、4年後には新たな感動とともに塗り替えられてゆく。

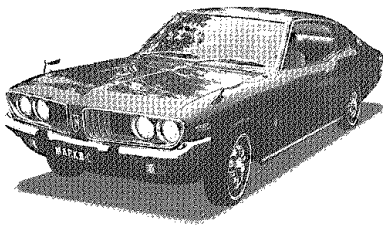
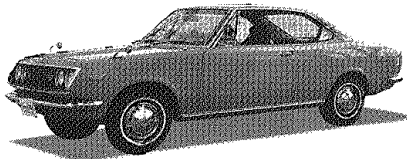
1968年に誕生して以来、斬新なモデルチェンジのたびに
「高級車」の概念をリードし続けているマークIIの軌跡を、
ここにご紹介しようと思う。

初代
1968

メキシコ5輪

日本サッカー、銅メダルを獲得。

マークIIは、東名高速道路が開通した年でもある1968年に誕生。未だOHV方式が多かった国産車の中で、いち早く全車にOHCエンジンを搭載。大衆車と一線を画する精悍なボデーに、5人がゆとりをもって乗車できる室内空間と優れた高速走行性能を備え、本格化し始めた日本のモータリゼーションに「ハイグレードパーソナルカー」という新時代の価値観を示した。



2000ccにアップされたエンジン、ワイドトレッド・ロングホイールベース化されたシャシーに、曲線を駆使した流麗なフォルムをまとった2代目マークII。静粛性に優れた6気筒エンジンを搭載する「L」シリーズもラインナップされ、高級車としての資質をさらに向上させた。

2代目
1972

ミュンヘン5輪

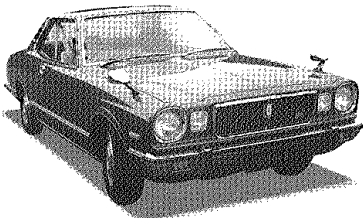
日本が体操で金・銀・銅あわせて13個のメダル獲得。

3代目
1976

モントリオール5輪

日本女子、バレーボールで金メダル獲得。

最高級グレード「グランデ」が誕生。車格感を大幅に向上した伸びやかでジエントルなボデーにトルクフルな2600ccエンジン、4輪独立懸架方式のサスペンション、4輪ディスクブレーキなどの高度な技術が注ぎ込まれ、走行性能を格段に向上させている。オートエアコン、ランバーサポートなど、快適なクルージングのための装備充実も図られた。

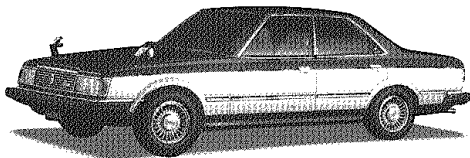


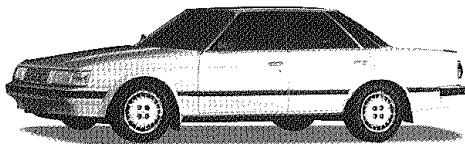
4代目
1980

モスクワ5輪

(日本不参加)

キャビンスペースを広くとった直線的なデザインの4代目マークIIでは、居住性・快適性を向上させる数多くの先進技術を採用。クルーズコンピューター、スピークモニターなど数々のエレクトロニクス装備が高級車の新たな居住性概念を創出した。





「ハイソカー」の代名詞ともなった5代目マークII。新世代エンジン「レーザー」シリーズの最高峰1G-GEU型ツインカム24や、新世代フットワーク「ベガサス」、4輪ESCなどの高度なテクノロジーが惜しみなく注ぎ込まれている。「美しき正統」のキャッチフレーズともあいまって、美しいハードトップ、マークIIを強く印象づけたモデルである。

5代目
1984

ロサンゼルス5輪

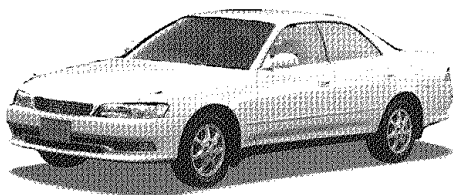
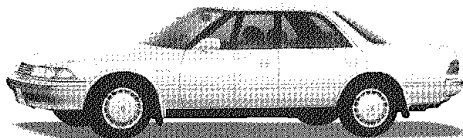
体操で具志堅幸司が大活躍。金、銀、銅合わせて4つのメダルを獲得。

6代目
1988

ソウル5輪

男子100m背泳で鈴木大地が金メダル獲得。

カドのとれた柔らかな造形は室内空間にも生かされ、ドライバー側に向けられた各種コントロールスイッチなど、高度なテクノロジーをより自然に扱えるよう様々な進化が図られた。後輪には新たにダブルウィッシュボーンサスペンションが採用され、走行安定性をいっそう向上させている。



4輪ダブルウィッシュボーンサスペンションの採用など「走る・曲がる・止まる」の基本性能を刷新。衝撃吸収構造ボデー「CIAS」やサイドアビームの採用など、安全性能も格段に高められた先代モデルである。

7代目
1992

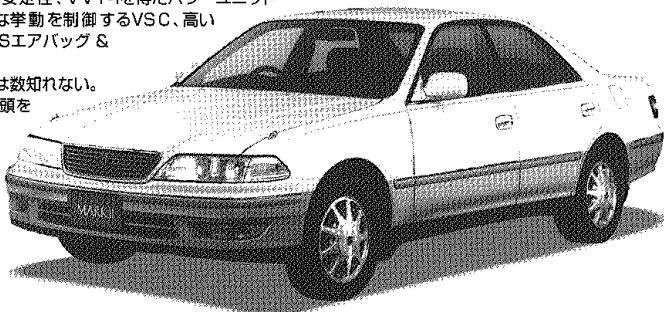
バルセロナ5輪

柔道の古賀裕彦が金メダル獲得。

8代目 1996

そして1996年、8代目マークII登場。高級車の指針を示し続けたマークIIは、世界トップレベルの性能を手に入れた。

成熟されたダブルウィッシュボーンサスペンションとスカイフックTEMSが生む、高次元の乗り心地と走行安定性、VVT-iを得たパワーユニットの力強いトルク、横方向への過剰な挙動を制御するVSC、高い安全性を誇るGOAやデュアルSRSエアバッグ&サイドエアバッグ・・・
マークIIに注ぎ込まれた先端技術は数知れない。常に高級パーソナルサルの先頭を走り続けたマークIIだからこそ到達し得た世界トップレベルの性能を、どうか存分に味わっていただきたい。マークIIの「高級」は、換ることによってこそ真価を発揮するものであるから・・・。



マークIIは、先進の工場で
生産されています

トヨタ自動車 九州株式会社

【工場概要】

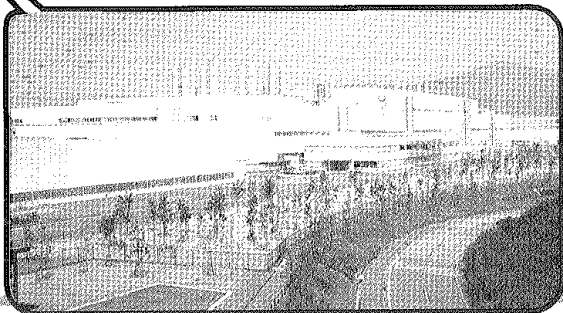
所在地/福岡県鞍手郡遠田町大字上有木字平山1番

用地面積/約106ヘクタール(32万坪)

工場の種類/乗用車の組立工場

生産能力/年産20万台

総建物面積/233,018m²(7万坪)




<関東自動車工業株式会社 東富士工場生産の車両もあります。>

ちょっと一言

衝突安全ボデー“GOA”やABSはもちろんのこと、次のような安全装備、快適装備を標準装備しています。


UVカットガラス

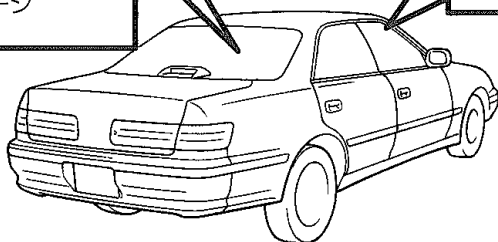
全ドアガラス、バックウインドウガラスは紫外線をカットするUVカットガラスです。

 68ページ

挟み込み防止機構

(運転席ドアガラス)
異物の挟み込みを感知すると、自動的にドアガラスが開きます。


 68ページ




運転席・助手席 SRSエアバッグ

 46ページ


運転席・助手席 フォースリミッター 付シートベルト

 44ページ


リヤ席用 カップホルダー

 158ページ

全席3点式 シートベルト


 43ページ

SRSサイドエアバッグ

 46ページ

チャイルドシート固定 機構付シートベルト

(リヤ左右席)
チャイルドシートをしっかりと固定できます。

 45ページ

